

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度始めや職員研修の中で理念を確認し支援の中に活かしている。新任者にはその都度、理念について研修を行っていき理解に努めている。	年度末に取り決めたグループホーム目標、各ユニット目標については職員会議で発表し休憩室の目付き易い所に掲示し、ユニット会議の席上読み合わせ共有と実践に繋げている。年度末には振り返りの機会を設け、次年度の目標設定に繋げている。職員は目標達成に向けお互いを思いやり、気持ちを一つにし、利用者に寄り添っている。家族に対しては利用契約時に法人について説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアさんや保育園児との交流、地域の催し物に参加、関連施設のデイサービスでの交流等を行っていたが、新型コロナウイルス予防対策のため自粛している。	開設以来隣接する特別養護老人ホームと共に区費を納め地域の一員として、防災訓練、地域の文化祭等、参加できる行事には参加し地域に開かれた施設として活動しているが、新型コロナウイルスの影響を受け殆どの行事が中止となり残念な状況が続いている。今年5月以降、新型コロナウイルスの感染対策の緩和を受け状況を見ながらできることから再開していこうとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議が施設をご理解いただく場所となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、会議を開き施設での取り組みについて意見交換をしている。	新型コロナ禍が続き書面での開催が続いていたが昨年の7月より参集しての会議を行っている。利用者代表、家族代表、区長、前区長、元区長、区長代理、民生委員、市高齢者介護課職員、ホーム関係者の出席で奇数月ごとに行っている。利用状況、活動状況、活動計画、ホームの状況などを報告し、「物価高騰」「コロナ対応」「インフルエンザ対応」等について意見交換しサービスの向上に繋げている。特に現区長、区長経験者の出席を得て、地域との連携に力を入れている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通じ現状を知っていたき、相談やアドバイスをいただいている。	市高齢者介護課には事故報告を速やかに行い、様々な事柄について連絡と相談を行っている。地域包括支援センターとは入居者状況等で連携を取っている。介護認定更新調査は調査員がホームに訪し行われ、現在はコロナ禍により家族の立ち合いは自粛し職員が対応している。介護相談員の来訪もコロナ禍で行われていないが、再開されればいつでも受け入れることができるようにしている。	

認知症高齢者グループホーム森の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2か月に1回、委員会や研修を行い理解を深めている。	法人の方針として拘束のない支援に取り組んでいる。玄関は安全確保のため施錠されている。外出傾向の強い利用者がいるが、ホームの広い庭を散歩し納得していただいている。転倒、転落の危険のある方が数名おり、家族と相談の上人感センサーを使用している。2ヶ月に1回開かれる法人の虐待防止・身体拘束適正化委員会に担当職員が出席しホームに持ち帰り、その内容を周知することで拘束に対する意識を高め拘束ゼロに向けた支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会や施設の職員研修を通じ勉強会を行っている。言葉の虐待についても注意するよう職員同士、予防に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修にて、制度の理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の説明時に、疑問点など伺いながら説明している。不明な点は随時きいていただくように案内している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に匿名で記入いただける意見箱を用意している。面会時には施設での様子をお伝えしご家族からの要望をお聞きしている。	家族の面会はコロナの感染警戒レベルに応じ行っている。現在は事前に予約を頂き玄関先での窓越し面会を行っている。新たに入居された利用者については入居された日から1週間位様子を見て、毎日家族に細かな状況を知らせ喜ばれている。合わせて、ホームでの生活の様子は2ヶ月に1回発行される便り「森の里だより」に担当職員の一言を添え届けている。また、誕生日や母の日、父の日には花や衣類等のプレゼントが届けられている。今年、5月以降の感染状況を見て、敬老祝賀会に家族を招待したいという意向を持っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議にて意見や提案を聞き改善できるよう取り組んでいる。	月1回職員会議とユニット会議を行っている。各委員会からの報告、各種勉強会、活動計画の確認、利用者一人ひとりのカンファレンス等を行い、業務内容の周知を図っている。年1回、10月に自己管理シートを用い自己評価を行い、施設長の面談が行われ、意見・要望等を聞く場が設けられている。更に、年度末に施設長による個人面談を行い職員の生の声を聞き想いを受け止め、思いやりのある施設とし利用者に寄り添うようにしている。また、礼節委員会の中で職員同士で気づいた良い言動、行動等の気づきを集めフィードバックし、気持ちの良い職場づくりに繋げている。また、年1回ストレスチェックが行われ職員のメンタルヘルスにも取り組んでいる。	

認知症高齢者グループホーム森の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回代表者が意見・要望・仕事への取り組みを聞き、人事考課へ反映している。個人の事情に応じ希望を取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議やユニット会議の中で勉強会を行いながら日々の実践の中で指導をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム入居希望者を紹介することがある。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接時、生活歴や日課・習慣等を聞き、入所後はどのような生活を望んでいるのかをお聞きし安心して生活が送れるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅での様子、困っていることを聞きとりご家族に経過報告をし連絡を取り合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の状況や担当ケアマネージャーからの情報から、必要なサービスを選択できるよう相談させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のできること、できないことを見極め、自信を持ってやりがいのある生活が送れるよう努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と密に連絡を取りご本人の様子や思いを伝えたり、ご家族の要望を聞き取り、生活に活かすよう努めている。		

認知症高齢者グループホーム森の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や本人より馴染みの人や場所をお聞きし手紙を書いたり電話をしたりしている。	新型コロナ禍が続き、友人、知人の面会は自粛しているが電話で話をする利用者があり交流が途切れないよう支援している。また、以前のように買い物に出掛けることが難しい状況下、コープのカタログを見て希望の物を聞き職員が注文し渡している。理美容については月1回契約の馴染みとなった訪問美容師の来訪があり、希望に応じカットしていただいている。更に、昨年末には恒例の手作り年賀状を家族に発送し喜ばれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	必要に応じ職員が介入し利用者同士話ができるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次のサービス利用への移行まで他事業所と連絡調整を行い本人・ご家族が不安にならないように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望や意向を確認し職員間で情報を確認しながら極力サービスに取り組むようにしている。	殆どの利用者が自分の意思を表現でき、日々の生活の中で掃除、洗濯物たたみ、おやつ作り等、やりたいことに取り組み自由に過ごしていただけるようにしている。また、飲み物、食べたい物、洋服選び等は幾つか提案して選んでいただくようにしている。そうした中、日々の気づいた言動等はケース記録に書き留め、職員会議やユニット会議で情報を共有し利用者の意向に沿った支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の暮らしをご本人・ご家族・担当ケアマネージャーから情報を収集し、入居後も馴染みの暮らしが継続できるように務めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の生活習慣を把握したり関わりの中からおもいやニーズをくみとるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスや介護記録を通じてモニタリングを行い計画を作成している。	職員は1~2名の利用者を担当し、居室管理、排泄状況の管理等、日々の生活全般について管理している。家族の希望は電話で聞き、更新時の2週間前に担当職員と管理者がモニタリングを行い、カンファレンスの席上全職員で意見を出し合いプラン作成に繋げている。入居時は在宅時の担当ケアマネージャーや法人内のデイサービスでの状況も参考に暫定で3ヶ月間のプランを作り、状況に応じ1~2週間様子を見て本プラン作成に繋げている。基本的には6ヶ月で見直しを行い、状態に変化が見られた時には随時見直し、一人ひとりに合った支援に繋げている。	

認知症高齢者グループホーム森の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態の変化や行動を記録し情報を共有し、必要に応じてケアの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族と密に連絡をとり状況に応じてその時々に必要な対応を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等で地域の方々に情報をいただいたり、多くのボランティアに來所いただけるように働きかけていたが新型コロナウイルス感染予防のため自粛している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居しても本人のかかりつけ医に受診ができるよう支援している。かかりつけ医を持たない方は近隣の往診可能な医師を紹介している。	入居時に医療機関についての希望を聞き、ホームとしての取り組みについて説明している。現在、入居前からのかかりつけ医利用の方は若干名で基本的に家族付き添いによる受診対応で情報提供書を持参していただいている。他の大半の利用者はホーム協力医の2ヶ月に1回の往診で対応し、状況に応じ随時往診を受ける方もいる。また、週3日勤務のパート看護師が在籍しており健康管理と合わせ緊急時の対応もオンコールが可能となっている。更に看取り支援等、必要に応じ訪問看護師とも契約を結び万全な医療体制を整えている。歯科については必要に応じ訪問歯科の往診で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に相談し受診を検討したり処置を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報を提供し、退院後の情報提供がある時には出席し情報交換・相談に努めている。		

認知症高齢者グループホーム森の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時より終末期についてのお話をさせていただいている。ターミナルになった場合、ご家族・医師・施設で話し合い支援している。	重度化、終末期に対する指針があり契約時に説明し同意を頂いている。食事を摂ることが難しい状況になり終末期に到った時には家族、医師、看護師、ホームで話し合いの場を設け家族の意向を確認の上、医師の指示の下、医療行為を必要としない場合に看取り支援に取り組んでいる。開設以来5名の方の看取りを行い、新型コロナ禍の中ではあるが家族には居室にて共に過ごしていただき、また、希望があれば居室に泊まり最期を共に迎えていただき感謝の言葉も頂いている。看取り中には利用者の好きだった飲み物を口に含ませたり好きな音楽を流し好きだった洋服に着替えていただきお見送りをしている。また、看取り後は振り返りの機会を設け、その経験を基に意見を出し合い次回に繋げるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員研修にてAEDの研修や急変時の対応の方法を看護師が講師となって訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間を想定した避難訓練を行い職員は役割分担に基づき行動できるようにしている。訓練の協力を区長・自衛消防団の方々にもお願いしている。	年2回、9月と3月に消防署へ届け出の上防災訓練を行っている。日中や夜間の火災などを想定し、水消火器を使っての初期消火訓練、通報訓練、利用者全員外へ移動しての避難訓練を行っている。合わせて車いすを使っての避難確認も行い、年度初めには緊急連絡網の伝達訓練も行い防災への備えとしている。備蓄として食料品、介護用品、石油ストーブ、毛布等が準備されている。また、地元区との防災協力応援協定が結ばれ地域との協力関係も構築されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の特性を今後も生かし個々を大切にしながら、尊厳を保持した関わりを心掛けている。	排泄介助には特に気配りをし、職員同士利用者の前では話をしないよう心掛け、特に個人的な話はしないよう徹底している。また、丁寧な言葉遣いに心掛け、利用者との信頼関係を築くことで気持ち良く、日々、送っていただけるよう支援している。呼び掛けは基本的には苗字に「さん」を付けお呼びしている。入室の際には「ノック」と「失礼します」の声掛けをするよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己選択、自己決定の場面を設け思いを聞き出せるように努めている。日常生活の中で想いや気持ちを引き出せるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	画一的な対応ではなく、その方のペースに合わせて個々の食事の時間や就寝時間、起床時間に対応している。		

認知症高齢者グループホーム森の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月、理容師に訪問してもらい、ご本人の希望に沿った髪型にしてもらっている。外出時、入浴時には希望に合わせた好みの服に着換えていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様とおやつを手作りしたり、希望の献立や行事食、郷土料理も取り入れている。できる限り一緒に盛り付けや食器洗いをしている。	利用者全員が自力で食事を摂れる状況である。副菜は隣接の特別養護老人ホームから管理栄養士が立てた季節感や行事を加味したものを運び、汁物についてはホームで作っている。平均介護度1.8と元気な方が多く、下準備、後片付け、テーブル拭き等、積極的に参加していただいている。また、毎日のおやつ作りに力を入れており、希望に合わせて「豆乳プリン」「すいとん」「ホットケーキ」「こねつけ」等楽しみながら作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量をチェックし摂取量が少ない方は別のもので補うようにしている。飲み込みづらい方にはトロミを使用したり安全に摂取できるよう心掛けている。また食器なども工夫し1人ひとりに合った物にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	委員会にて歯科衛生士から技術指導してもらい職員間で情報を共有している。1人ひとりの口腔内の状況を把握し支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握しその方に合ったペースで排泄できるようように努めている。	全利用者が一部介助という状況で、また、リハビリパンツとパット使用の方が大半という状況の中、トイレでの排泄を支援している。家族から聞いた入居前の状況も参考に、1ヶ月単位で個人記録を取りパターンを把握し、起床時や食事前後の定時誘導に合わせ様子を見てトイレに誘導している。排便については3日間無い場合にコントロールを行い「お茶」「コーヒー」「スポーツドリンク」等、1日1,200cc以上の水分摂取に取り組みスムーズな排便に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、水分摂取量に気を配り乳製品やオリゴ糖等を提供し自然排便を促している。また主治医からその方にあった整腸剤等も処方していただいている。		

認知症高齢者グループホーム森の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、本人の体調や気分によっても入浴ができるようにしている。また季節によって菖蒲湯、ゆず湯、リンゴ湯などを行い、季節を感じていただいている。	広い浴室には3つの浴槽とリフト浴が備え付けられ、複数の利用者が一度に入浴することができ、気の合う利用者同士と一緒に入浴を楽しむ時もある。全利用者が何らかの介助が必要な状態で、週2回入浴を行っている。入浴拒否の方も数名いるが誘い方に工夫を対応している。入浴剤を使用したり、「ゆず湯」「菖蒲湯」「リンゴ湯」「かりん湯」等、季節のお風呂も楽しんでいる。また、新型コロナ後には上山田温泉の足湯に出掛けたいという意向も持っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様には、自由に好きな時に好みの場所で休んでいただいている。夜間は利用者様が眠くなった時に、休んでいただけるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容を職員全員が常時、見ることができる場所に置いている。また誤薬、投薬漏れがないよう2名で服薬チェックを行い服薬ミスを防いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なことや好きなこと、したいことを見つけ生活に取り入れている。お酒などの嗜好品も楽しんでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節と天候によるが毎日、散歩をしていたりしている。体調、気分、天候によって歩行距離を決めている。本人の希望の外出については新型コロナウイルス感染予防のため自粛している。	室内では自力で歩かれる方が多いが、外出時には杖・歩行器使用の方が大半で、車いす使用の方が若干名という状況である。天気の良い日にはホームの広い敷地内を散歩したり陽当たりの良いロビーでお茶を飲みながら外気浴を楽しんでいる。外出の自粛が続いているが、感染対策を取った上で春の桜から秋の紅葉見物まで近くの千曲川沿いや松代城址までドライブを兼ね、車窓より季節を楽しんでいる。5月以降感染対策の緩和を受け、出来る所外出行事を再開して行こうとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を預かり管理させていただいている方はいない。必要物品や医療費等の支払いの際はご希望に応じ事業所で立て替えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の協力を得ながら、希望のある時は自由に通話できるように支援している。		

認知症高齢者グループホーム森の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった飾りつけや花などで四季を感じていただいている。また大きな窓から四季折々の風景を楽しまれている。	温泉施設改修型の当ホームは敷地も広く周りには杏の木が多く植えられ季節になると満開の杏の花に囲まれ見事であるという。施設内も広く玄関を入ったロビーには多くのソファが置かれ利用者の憩いの場となっている。また、外出が難し中、広い施設内を歩き体力の維持にも努めている。壁には季節の花の写真等、居ながらにして季節が感じられようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの方が思い思いの場所で過ごせるような空間作りを心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご家族の写真や馴染みの家具などお持ちいただき、居心地の良い雰囲気作りを心掛けている。	各居室は広くゆったりとしたスペースが確保され、洗面台とクロゼットが設置されプライバシーに配慮した造りとなっている。持ち込みは家族と相談の上、使い慣れた家具、テーブル、イス、衣装ケース、テレビ等が持ち込まれ、家族の写真や自分の作品等に囲まれ自由な日々を送っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりの状態に応じてベット・タンスなどの配置し安全を図っている。トイレや浴室も貼り紙をし認識できようになっている。利用者様によっては居室に名前を貼り分かりやすいようにしている。		